

SAAJ 日本システム監査人協会報

日本システム監査人協会ホームページだより

<http://www.justnet.or.jp/home/saaj>

日本システム監査人協会のホームページは97年4月より立ち上がりました(図1)。この目的は、会員外のシステム監査に興味のある方への情報発信の場及び、システム監査の啓蒙普及活動の場を提供することです。

6月9日現在のコンテンツは次の通りです。

- ・ 新システム監査基準実務手順書の紹介と申込書
- ・ ホームページ開設のご挨拶
- ・ SAAJのご案内(図2)
設立趣意、規約概要、教会活動
- ・ 法人会員紹介
- ・ SAAJ会報目次の記録1号から10号まで

- ・ システム監査技術者試験対策合格体験記(1)、(2)
CAITテキスト入手方法
- ・ システム監査関係基準等
システム監査基準(未登録)
情報システム安全対策基準(平成7年8月29日)
ウイルス対策基準(未登録)
不正アクセス対策基準(未登録)
- ・ Q & A(図3)
システム監査について
日本システム監査人協会について



図1

まだまだ内容の充実からは程遠いのですが、少しずつ充実させて行きたいと考えています。ホームページに載せた方が良い項目や記事等がありましたら、ぜひホームページ担当までご連絡下さい。

なお、本年度のホームページ担当は以下の通りです。

- ・ 理事会としてのホームページ担当責任者
ニュース・お知らせ等担当兼
システム監査試験対策
蓮見節夫(MHE02226@niftyserve.or.jp)
- ・ ホームページの見出し及び全体の更新担当
荒牧裕一(MXC00544@niftyserve.or.jp)
- ・ 法人会員紹介
小野修一(syuichi.ono@unisys.co.jp)
- ・ 視聴者とのやりとり、ご意見、Q & A
清水順夫(MGH02633@niftyserve.or.jp)
- ・ トピックス・論文等担当
松枝憲司(PDF00711@niftyserve.or.jp)
松山博美(NAF02470@niftyserve.or.jp)
- ・ 法人会員紹介
内山美佐子(yamauchi@ctc-g.co.jp)

[TOPIC]

このホームページをご覧になったシステム監査を勉強されている方から記念講演の内容が知りたいという問い合わせがありました。

勉強したいという趣旨でしたので、94年総会での記念講演「クライアントサーバとシステム監査」の記事コピーをお送りしました。

また、実務手順書の申し込みも多数来ています。システム監査人協会の知名度を上げるのに一役買っているようです。

[PATIO]

次にPATIOのご紹介をしましょう。PATIOというのはNIFTYのサービスの一つで日本システム監査人協会のメンバーが参加できる会議室です。96年2月10日に開始し、現在270通の書き

込みがあります。

内容をご案内しますと、次の通りです。

- ・ SAAJ ホームページ関連
接続先決定、試作品、ノウハウ等ホームページを立ち上げるために蓮見さん、荒牧さん、清水さんが苦勞している様子がわかります。
- ・ 新監査基準研究プロジェクト関連
昨年に行っている新監査基準研究プロジェクトについてメンバー募集、議事録、実施手順書、本年度のプロジェクトについて等が掲載されています。
- ・ 各支部関連
中部支部の活動内容報告、九州支部の活動内容報告等が掲載されています。
- ・ 事例研関連
事例研の活動内容が報告されています。
- ・ 10周年記念論文
10周年記念論文は最優秀論文のみ会報に載っています。最優秀論文以外の論文はPATIOに掲載され、議論が始まっています。
- ・ 議論、提案など
今後のシステム監査人協会をどのように強化していくか
上級システムアドミニストレーター協会との関連について
PCの安全対策について
バグに対する対応について
ウイルス対策ガイドラインについて
名簿にe-mail addressを追加しては？
日本システム監査人協会を騙った資格商法
- ・ 関連団体の日程案内
ISACA例会の案内、システム監査学会の案内など
- ・ 会員自己紹介、近況状況

PATIOに参加を希望される方は、蓮見理事(MHE02226@niftyserve.or.jp)までお申し込み下さい。

〔紹介〕

システム監査に関連するホームページ

最近、いろいろなホームページが立ち上がっています。中にはシステム監査に関連するホームページも見かけるようになりました。これらのホームページはいずれSAAJホームページにリンクする予定ですが、会報でもご紹介します。

1 基準関連

財団法人 日本情報処理開発協会のホームページにシステム監査関連の各基準が掲載されています。

ホームページ <http://www.jipdec.or.jp/>
 情報化施策/個別施策について

<http://www.gip.jipdec.or.jp/policy/infopoli/indivipoli.html>

コンピュータ不正アクセス基準

(平成八年通商産業省告示第三百六十二号、第三百六十三号)

<http://www.ipa.go.jp/SECURITY/ciadr/crack-gl.txt>

コンピュータウイルス対策基準

(平成七年通商産業省告示第四百二十九号)

<http://www.ipa.go.jp/SECURITY/antivirus/kijun429.txt>

システム監査基準

<http://www.gip.jipdec.or.jp/policy/std-doc/inspect-std.html>

2 セキュリティ関連

情報処理振興事業協会(I P A)のコンピュータセキュリティ対策ホームページです。ここでは、ウイルス、不正アクセス、暗号化技術などの情報が掲載されています。また、ウイルス被害届の状況も掲載されています。

<http://www.ipa.go.jp/SECURITY/index-j.html>

3 ウイルス関連

平成9年8月8日付けに、急増するマクロウイルスについて通産省からの発表がありました。

「マクロウイルスによる被害届出急増に対する対策の検討について」

<http://www.miti.go.jp/press-j/f-menu-j.html>

この記事によれば、マクロウイルスの比率は97年1月は19%だったのに比べ7月は66%。マクロウイルスの急増により、ウイルス全体件数も1月に比べ7月は6倍にもなっています。

4 システム監査学会

システム監査学会のホームページは次のアドレスです。研究会、監査基準等についての情報が載っています。

<http://yl.sapporo-u.ac.jp/JSSA/>

「電子マネーに思う」

最近、続けて電子マネーに関する話を聞き、ちょっと面白いなと思ったので、並べて報告と感想を書かせていただくことにしました。

No.526 富山伸夫

1. モンデックス見学会

日時：平成9年6月9日

場所：日立製作所、大森別館

講師：新金融システム推進本部

部長代理 萬谷隆一氏

見学概要

1) モンデックスとは

モンデックスは、ICカードを使った「電子財布システム」の一種である。英国のナットウエスト銀行が推進母体で、95年からトライアルを始め、現在は世界6ヶ国(英国、米国、カナダ、ニュージーランド、オーストラリア、香港)で試

行中であり、実用化の準備が進められている。

ICカードの電子マネーが注目されたのは、これが現金の特性をすべて持つと同時に、現金の不便さを克服できているところにある。すなわち、現金の流動性や匿名性をそこなわずに、おつりや紙や送金や偽造などの問題をクリアすることが期待されている。

デモでは、ICカード、残高表示器、ワレット(マネー交換器)、モンデックス電話などで、実際に電子マネーが使われる形を見学した。これらのシステムと機器には、暗号技術は勿論だが、情報機器メーカーの熱い思惑が感じられた。

2) モンデックスの実用化

実際に電子マネーが使われるには、それなりの社会システムが備わっていないと行かない。一カ国に一つのオリジネーター(マネーの発行銀行)、メンバー銀行、大型小型の電子マネー交換機器を備えた各種店舗、預金の一部をICカードにして保有する一般消費者等々である。

さきの6カ国は、モンデックスインターナショナルよりライセンスを受けフランチャイズ料を払う実施機関を設立し、その下で金融機関にモンデックスマネーを扱って貰う体制を作ることになる。

日本では、興銀やさくら銀などが関心をしめしているものの、金融法制の整備などまだまだ課題が多いので、いつごろから始まるかめどはついていない。

2. 電子マネーの光と影

日時 平成9年6月23日

場所 ISACA年次総会記念講演

講演 筑波技術短期大学 助教授

白田 佳子氏

講演要旨

1) 電子マネーとは

技術的にどう実現されるかはともかくとし

て、まずその要件を考えてみる。利用者にとって、いつでも、どこでも、幅広く、安く、安全に、そして何度でも使えるものでなければならぬ。提供者にとっては、採算性が高く、実効性がある、かつ不正を防止できるものということになる。

例えば次の表のようなものが出ている。

| 電子決済方式 | | | 電子現金方式 | |
|------------|-----------------------------|----------|--------|------------------------|
| 小切手 | クレジット | デビット | ICカード | ネットワーク |
| Check Free | First Virtual Cyber Cash | Net Bill | Mondex | DigiCash Mark Twain |
| 数日 | 1-3ヶ月 | リアルタイム | リアルタイム | リアルタイム |
| あらゆる所 | 情報商品 | 情報商品 | あらゆる所 | インターネット |
| 非匿名 | 非匿名 | 非匿名 | 匿名 | 匿名 |

2) 電子マネーの安全性と法的環境

インフラリスクとして、媒体事故、システム異常、ネットワークエラーなどが考えられるが、これには、暗号化技術の向上、システムの信頼性の向上が欠かせない。それよりも人的リスクとして、不正行為、操作ミスなどが大きいと思われるが、これこそ内部統制制度の確立の問題である。

法的には、無くしたり、ぬすまれた時にどうなるかは、現金と同じと考えなければならないが、もう一度現金へ戻したい時発行者への権利行使の方法がはっきりしない。現行の法規ですべて対応可能なのか、どういう法体系の基なら十分なのか、今一つ不明確な状況である。

3) 本当に便利なのか、誰のメリットか

日本での日常からすると、どうも便利さが見えてこない。欧米ではなんで積極的なのか考えてみると、小切手社会であること、デビットカードの出現で電子マネーの素地があること、金融の多様化で銀行だけがお金の預け先でないことなどがある。わが国では、誰がうれしいの

第49回月例研究会聴講報告

かを考えてみると、現金取扱い経費の軽減となる金融機関と発行差益が見込める電子マネー発行者、それと関連機器システムを提供する業者だけではないかと思えてくる。

利用者の立場からみると、使うも使わぬも自分の判断でということになる。情報化社会の現象として、仮想店舗とかサイバーマネーとかいわれているが、バーチャルなもので現実を代替することに本当にリスクがないのか、よく考えてみる必要がある。

3. 感想

私達の日常でも、電子マネーに近いお金の取扱いが進んでおり、欧米などの様子を本などで見ると、どうももっと電子化された世界へ行くのかなと考えてしまう。また、セキュリティ技術の進展ということで、監査人的にはどう対応して行くのかなど。

しかし、技術的に可能だからと言って社会的にもよいもの、実現できるものと決まったものではない。電子マネーが普及しても現金はなくなる。変わっても30～40%くらいと言われている。そのための社会的インフラ作りのコストを享受するメリットのバランスはうまく取れるのだろうか。社会の仕組み、制度があつての貨幣であり、電子マネーである。

日本の金融機関がもたもたしている間に、世界の大勢に遅れてしまうなどという声が聞こえてくるが(参考書:「電子マネー入門」岩村充著、日経文庫)、電子マネーについては別に遅れたっていいじゃないかとも思う。こうした社会的必然性をどう認識するかが大切で、上滑りな議論は避けたい。

監査にたずさわる者として、社会全体の効率とか安全性とかも考えておかななくては、と思われた一ヶ月でした。

日 時：平成9年5月30日

テーマ：「ERP導入とシステム監査の視点」

講 師：(株)産能コンサルティング

取締役コンサルティング部長

牧野 恭人氏

No.608 三谷慶一郎

「会社丸ごと動かすシステム」として昨今注目を集めているERPについて、その導入のポイントとシステム監査の視点について、当協会の副会長でもあられる牧野氏にお話を承った。

以下、講演の概要を報告する。

【概要】

1. ERPとは？

- ・ 新聞、雑誌、書籍、イベント等各方面においてERPは花盛りである
- ・ 70年初頭に登場したMRP(Material Requirement Planning)という概念をベースに登場してきたのがERP(Enterprise Resource Planning)である
- ・ 直訳すると「企業資源計画」の意になるが、一般的には「総合業務パッケージ」「統合機関連務システム」と呼ばれている
- ・ 市場には10数種類のパッケージが出回っているが、現時点ではSAPのR/3の一人勝ちのようである

2. 胸を張るERP

- ・ ERPには、既存のパッケージとは異なるいくつかのコンセプトが存在する
- ・ 多国籍、他通貨、他言語対応
- ・ 連結決算、国際会計基準準拠
- ・ ベストプラクティスを内包
- ・ 短期間、低コスト導入
- ・ 現状の企業システム運用・保守における不安と重圧を感じている現場は、このようなERPに対して、期待と夢をかけている

3. 導入のあるべき視点

- ・ ERPの導入にあたっては、まずその狙いを定量的に明確にする必要がある
- ・ 同時に、経営変革を行うべきトップ、業務プロセスを決定するユーザ、プロトタイプ環境設定等を支援するシステム部門が三位一体となって導入体制を固めるべき
- ・ ERPが保有する膨大な機能に対して、「自社においては何がどのレベルで必要か」を見極めなければならない
- ・ ERPが具備している業務プロセスをたたき台として積極的に吟味する。守るべき自社プロセスがあるのならばそれを明確にする
- ・ 対象外業務(場外処理)との連携等、統合パッケージの弱点を十分認識する
- ・ 外部コンサルタント支援やアドオン開発、教育の徹底等の必要なコストは十分に掛けなければいけない

4. 重要監査視点

- ・ ERP導入においては以下のような視点が重要となる
 - 狙いは的確か
 - トップ、ユーザが主役か
 - 選定プロセスは妥当か
 - 場外処理対策を配慮しているか
 - 関係者教育を重視、成果が伴っているか
- ・ ERP導入後においては以下のような視点が重要となる
 - 継続的に効果を高めているか
 - 手足改革(新プロセス導入・定着)を浸透させているか
 - 意識・頭脳改革(情報活用のレベルアップ)へ発展させているか

【聴講感想】

ERPに関する最近の報道においては、大きな導入メリットがある反面、使い方を誤ると効果を創出することが困難になることが指摘されている。

このような状況下において今回の講演は、ERP導入において留意すべきポイントを具体的

に示唆する等、有益な情報が多かったように思う。

また、「ERPに対するシステム監査」は、今後間違いなくニーズが高くなっていく領域であり、今回お話しただけの内容を含め、検討を深めてゆく必要があるという認識を新たにした。

第50回月例研究会聴講報告

日時：平成9年6月25日

テーマ：「ネットワーク時代のセキュリティとは
— コンピューターウイルス対策」

講師：情報処理振興事業協会(IPA)

セキュリティセンター室長

中村 達 氏

No.608 三谷慶一郎

当協会が発足した昭和62年以来、月例研究会は今回で50回を迎えた。

システム監査人が注目すべき情報技術、あるいはシステム化事例等について、会員間で研究する場を提供するという月例研究会の意義は極めて大きく、今後の更なる発展を期待したいと思う。

さて、記念すべき第50回のテーマは、インターネットの普及と共に最近注目を集めている「コンピュータウイルス」についてである。コンピュータウイルスの現況と具体的な対策について、IPAセキュリティセンター室長である中村氏にお話しを承った。

以下、講演の概要を報告する。

【概要】

1. コンピュータウイルスの種類と特徴

- ・ コンピュータウイルス対策基準では「第三者のプログラムやデータベースに対して意図的に何らかの被害を及ぼすように作られたプログラムであり、「自己伝染機能」「潜伏機能」「発病機能」の内、一つ以上を有するもの」と定義されている。
- ・ コンピュータウイルスは、他の誰でもなくユーザー自身がマシンに自ら入れていることを意識すべき

- ・コンピュータウイルスがひとつ発見されれば、その10倍はいると思ってほしい
- ・Windowsを含むDOSウイルスは9,000～10,000種類、MACウイルスは20～30種類ある
- ・ウイルスは大きく4つの種類に分類できる
 - ーブートセクタ感染型ウイルス(アンチシーモス、フォーム、ミケランジェロ等)
 - ーファイル感染型ウイルス(ヤンキードワードル、カスケード、サンデー等)
 - ーファイル・ブートセクタ感染型ウイルス(3445、フリップ2153等)
 - ーマクロ感染型ウイルス(WordMacro Concept, WordMacro Colors, ExcelMacro Laroux等)

2. コンピュータウイルス被害の発生状況・被害状況

- ・92年7月、A社が販売したDOSツールにカスケードが侵入(7,000部出荷)
- ・93年8月、T社が販売した書籍の添付FDにアンチテレフォニカが混入(27,000部出荷)

- ・94年11月、S社が販売したパソコン500台にPeterIIウイルスが感染していた
- ・96年4月、T社が販売したCD-ROMにMDBFが感染(25,000部出荷、CD-ROMは基本的にウイルス駆除が不可能)
- ・97年4月、国内企業においてExcelMacro Larouxに2,000台のパソコンが感染し、修復に400人日がかかった

3. コンピュータウイルス被害の発生状況・被害状況

- ・IPAに届けられた件数は、94年の年間1,127件をピークに95年は一時減少したものの96年以降再び増加している
- ・今年に入って届出は激増しており月間200件以上にのぼっている

4. 企業内ネットワークにおけるコンピュータウイルス対策

- ・侵入防止対策：信頼できる最新のワクチンの使用、定期的なウイルスチェックの実施等

鹿児島からのたより

No.635 永徳昭人

出水市に大きな被害を残した梅雨も今日7月20日によやくあけ、本格的な暑さの夏がやってきました。先日、事務局の山内さん(実は大学時代同研究室)から「距離的に遠く支部活動になかなか参加出来ない会員の意見を反映させたい」旨の原稿依頼をいただき筆?を取った次第です。

私は(株)南日本情報処理センターという鹿児島市の企業に勤務しています。当社はコンピューター機器の販売から顧客システムの開発、ハード保守、受託計算、アウトソーシング業務など何でもこなす会社で、年商50億程度の中規模の企業です。私はここの情報処理部ネットワークサービス課に在籍し、オンラインシステム及びインターネットサービスプロバイダー「MINC」(<http://www.minc.or.jp/>)のシステム運営全般の面倒をみています。

以前は汎用機とオフコンが主流だったので、インターネットやパソコンの出現で地方といえどもオープン化の波で社員全員が方向転換を迫られ四苦八苦といったところですが。私の課は他部門と違って、ユーザーの重要なデータを預かりスケジュールに則った処理を行うという非常に気を使う部署だけに、業務をやりながらのオープン化は思ったより苦勞が強いられています。

私は課員が作業を進めている上で必要になる技術(特にトラブルを未然に防いだり障害復旧をいかに迅速且つ効率よく行うかといった事)の指導やオープン化の推進を行っていますが、私自身入社以来ネットワーク関連のシステムの開発や運用に携わり、さらにインターネットサービスプロバイダーをやっているおかげで課員のよき相談役としてまた新しい技術を取り入れる窓口として課員の管理かたわら働いています。

さてシステム監査人協会との関わりですが、

- ・被害復旧対策：ウイルス対策窓口の設置、定期的なバックアップ等
- ・再発防止対策：感染経路、感染範囲の特定、ウイルス対策の全員への周知徹底等

5. 主なコンピュータウイルス対策ソフトウェア

- ・形態別ウイルス対策ソフト：検査ワクチン、駆除ワクチン、感染防止ワクチン
- ・機種別ウイルス対策ソフト：クライアント用、サーバ用
- ・ワクチン選択のポイント：
 - －技術サポート体制の良いもの
 - －新種のウイルス情報をすばやく提供するもの
 - －初期導入費用よりも維持経費が安いもの
 - －多くのウイルスが発見できるもの
 - －信頼関係が築けるもの
- ・コンピュータウイルス対策相談についてはIPAセキュリティセンターウイルス対策室で対応している

- ・TEL:03-3433-4844(ウイルス110番)
- ・E-mail:virus@adm.ipa.go.jp

【聴講感想】

プラットフォームの統一等によるいわゆるオープン化、とインターネットの拡大は、各企業、個人に対して多くのメリットを与えたが、皮肉なことにコンピュータウイルスの劇的な普及をも後押ししていることは間違いない。

今回の研究会における質疑においても、具体的な対策についてのアドバイスを求める声が多く、コンピュータウイルスが極めて私達の身近な問題になってきていることを痛感させられた。

ウイルスに感染したくないからクローズドなシステムにすべき、等という本末転倒な事にならないよう、個人においても企業においても、的確な対策を実施していかなければならない。

今のところ会報や時々配られる資料をながめるのが精一杯といったところで、会報や支部会の議事録をみるたびにあせりを感じています。何とか取残されないように時間を作っては情報の収集を行っているのが現状です。福岡での支部会へも出席したいのですが距離的なハンデはやはり無視出来ません。私の場合「時間的余裕」が最大の理由で、出席もさることながら分担して行う活動が出来そうにないメンバーのみなさんにかえて迷惑な気がしています。鹿児島ではシステム監査の需要も今のところ全くなく、監査実務の経験も全くありませんので監査ノウハウのない監査有資格者になっています。出来れば模擬監査などをみたり体験してみたいのですが、例えばビデオ等で配給したりインターネットを通じてホームページで事例紹介してもらえたらうれしいです。イベントとしてインターネットテレビで監査風景を配信してもらえると更に画期的なのですがどうでしょうか？

ところで実務経験はないとはいえシステム監査の知識は毎日の業務遂行には大変役に立っています。特にシステムの信頼性や安全性に対しては課員にも強く指導しています。

いま当社は来年10月にISO9000の取得に向けて準備中で、私もその準備プロジェクト員兼内部監査員として品質システムを構築中です。そしてここ数年鹿児島大学工学部からの依頼を受け、毎年9月に「オンラインシステムの運用と管理」と題して情報工学科の3年生を対象に集中講義を行っており、その準備やらで熱い8月は夏バテする余裕もなく、きっと9月の終わりには一人遅れてダウンしていることでしょう。

永徳 昭人 (Akito Eitoku)
 (株)南日本情報処理センター
 E-mail: mincadmin@minc.or.jp
 eitoku@po.minc.or.jp
 TEL: 099-255-9995
 FAX: 099-285-3499

中国支部だより

中国支部 No.387 安原節男

年度末・始の業務繁忙に追われていたら梅雨。各地に大雨を降らせ、その梅雨があがったかと思えば、次は厳しい暑さの毎日。と過ぎていき、カレンダーは、どんどん薄くなっていきます。

それに反して、中国支部としての活動は、足踏み状態。今年は中国通産局主催の「コンピュータ不正アクセス対策基準及びシステム安全対策基準の説明会」に参加することで、研修会としたもののみ、しかし、ひき続きの懇親会はなかなかの盛会でした。

その後、会員への連絡手段としての、NIFTY、E-mail等のアドレス調査と現行化、「システム監査企業台帳」への登録申告の周知、近着の本部研修会ビデオのご案内などを行ってきました。

お盆が終われば、いよいよ“秋”、中国支部としても行動を開始します。広島地区、岡山地区、松江地区での研修会の実施。それぞれ共催相手との日程調整(9月～11月)に入っています。

研修会は、SAAJとりまとめの「新システム監査基準、実務手順書」が中心となります。この手順書は、実に詳細によくできていると感心するとともに、FD収録でExcel活用と利用価値のあるものです。

また、研修会では、私自身が経験した「システム監査の実務例」も加えていきたいと思っています。

九州支部だより

九州支部 行武 郁博

九州支部活動状況(5月～7月)

例によって変わり映えのしない「支部だより」ですが、毎月の例会報告です。

5月例会 出席者8名

○「システム監査の普及策について」—10周年記念論文—(行武)

論文の内容説明をおこなった。

○今月より会員の平山氏の紹介で菱算(株)(長崎市)の太田氏が参加された。

6月例会 出席者9名

○「ソフトウェア法的保護に関する最近の動向」—システム監査学会の法的リスク研究会—出席報告(守田)

今年2月にコンピュータソフトウェア関連発明の審査運用指針が定められ、プログラムを記

録した媒体、データ構造に基づくデータを記録した媒体も特許の対象に加えられアメリカと軌を一にすることとなった。

○新システム監査基準の情報戦略項目の新設について(行武)

新設された情報戦略項目の確認および内容の検討をおこなった。

○最近新人の出席が増えたので例会終了後、懇親会を開催して会員相互の親睦を図った。

7月例会 出席者9名

・「情報システム管理の理念」—「システム監査」誌発表論文—(守田氏)

会員の守田氏が上記論文を発表されたので(「システム監査」誌第10巻3号所収)

内容を説明して貰った。システム監査の対象である情報システムは事務処理システムであり、経営管理機能の一つであるという観点で経営者が情報システムを管理するために必要な考え方を「情報システム管理の理念」という形で取り纏められた。

・「新システム監査基準と国際化対応について」(行武)

国際化対応とされる項目の確認と内容の検討を行った。

・今月より新たにNECソフトウェア九州(福岡市)の中戸氏が、また、転出されていた同社の鞍馬氏が帰任、出席された。

例会の出席者も念願の2桁になりそうで、今後とも実りある例会を心掛けてゆきたいと思っています。

近畿会だより

近畿会 No.128 清水順夫

電子メールエチケット集完成をめざして

1. 企画の趣旨

近畿会では、近畿会10周年記念プロジェクトの一つとして、「電子メールエチケット集」を作成中です。電子メールは、公私の両面にわたり、コミュニケーション手段として必須のものとなってきました。

ところが、活用が進むにつれて、さまざまな問題点も出始めました。また、その活用の良否が、企業や団体の、あるいは個人の活動の成果や効率に大きく影響するようになってきました。

そこで、システム監査人の目からみた、電子メールのエチケットについて、その活用方法も含

めてまとめてみようという企画を推進することになったのです。

2. エチケット川柳を集める

エチケット集といっても、一通りの解説だけではおもしろくありません。そこは近畿会、「KANSAI」の濃いパワーがあふれています。サラリーマン川柳にヒントを得て、まずは電子メール川柳を集めようということになりました。昨年の忘年会に、各自力作を持ち寄った結果、66句の電子メール川柳が集まりました。

その一部をご披露しましょう。

飛びこしは、写し利用で 円満に
悪い報告 金曜夜に そっと出し
忙しい 時ほど届く クズメール
困ったな 勝手に転送 親展書類
Eメール 誤字を電話で 指摘され
読みにくい 引用引用 また引用

どうです？ メールに必要なエチケットやメール時代の文化が透けてみえませんか。それとその裏に、新しい道具に戸惑うサラリーマン諸氏の顔色も。

3. 第53回近畿会定例研究会

集まった川柳はいずれも力作ばかりですが、川柳だけではエチケット集になりません。そこで、作品を分類し、各分類ごとに代表的なものにコメントをつけて、近畿会の第53回の定例研究会で清水が発表させていただきました。分類と概要は次の通りです。

1) 活用の巻

活用の方法と企業風土の変革に関するもの

2) マナーの巻

書き方や出し方のマナーに関するもの

3) テクニックの巻

読んでもらう、返事をもらう、知っておいてほしいなど読ませかたのテクニックに関するもの。

4) セキュリティの巻

パスワードや暗号化などセキュリティに関するもの

5) 文化の巻

文書や手紙と電子メールの違いから生ずる文化に関するもの

この発表をもとに研究会の席上で活発な意見交換を行いました。

4. エチケット集完成をめざして

今後は、近畿会のパーティオや電子メールを活

用して内容を練り上げ、わかりやすくおもしろい電子メールエチケット集の完成をめざしたいと思います。KANSAIパワーにご期待ください。

中部支部だより

中部支部 No.124 原善一郎

例会と懇親会の中部支部

中部支部は奇数月の第4土曜日に例会を行っています。忘れたころにやってくる例会という感じですが、これがちょうどよいリズムの様です。本年度のテーマをゼミ形式で会員が相互に発表しています。もちろん、外部の講師をお願いすることもあります。

午後3時から午後5時までの2時間のゼミです。いつも12から15人ほど集まります、2時間のうちには必ず一言は意見を言うチャンスができます。「家族的雰囲気の中中部支部」です。出席時には着席場所に自分の名前を書きますので、新しく来ていただいた方も、例会中に名前を覚えられます。そして、普段の友達言葉での質問や解答、討議があります。

しかし、内容は決して安易なものではありません。実務家が集まったらこそ、問題の本質に迫る意見の交換が行われます。たとえば、「従来のメインフレーム系のシステム開発グループとマルチメディア系のシステム開発グループの気質の違い」などという点では、実務経験の長い技術者の集まりでは耳の痛い話も、ずばりとその弱点をつく意見が出ます。

さて、例会が終わると、恒例の懇親会です。行き付けのお店で夕食とお酒を飲みながらわいわいと話をします。これは大抵、5時半から8時頃までですので、例会より重要な？ 集まりです。登山の話、米作りの話、試験の話、仕事と主婦業の両立の話など、良くぞ話題が尽きないなあというほど面白い話が集まってきます。さすがに、多芸多才な方が集まっていると感じられます。

さらに、二次会へ有志で出かけます。お酒も回ってきて人生相談もしてしまうと言う状況でして、まさに、家族的雰囲気の中中部支部とあいなります。

チャンスがありましたら、中部支部の例会を覗いてください。

連絡先：e-mail: znhara@pacific-ind.co.jp

(SAAJ中部のメーリングリストの申し込みも受け付けます。)

寄稿・事例研監査報告 はじめてシステム模擬監査に参加して

No.734 事例研究会 鈴木章司

6月2日、自動車部品製造業であるX社のシステム監査報告会を、他の6名のメンバーの方々(北出磯秋、鈴木実、成沢徹哉、松枝憲司、村上均、吉田裕考)と共に無事終えることができました。今回のシステム監査は1月の監査依頼主旨等の確認から始め、約4ヶ月間で実施しましたが、私自身は2月下旬のトップヒアリングから参加させて頂きました。

1. 今回のシステム監査の背景

X社では、一部上場を目指し昨年監査室を新設しました。今回のシステム監査は、新任の監査室長が「何かやらねば」の思いを込めて依頼されたようです。

2. 今回のシステム監査のポイント

今回のシステム監査では、X社の現況及び監査ニーズから、以下の2つを監査テーマとしました。

- (1) 安全性・信頼性の観点から、コンピュータシステムの危機管理
- (2) 効率性の観点から、情報システムの中長期計画の評価

3. 今回のシステム監査日程

- 1月30日(木) 監査依頼主旨等の確認のため監査室長を訪問
- 2月12日(水) 事例研究会でメンバー決定(7名)
- 2月25日(火) 情報システム担当取締役との面談(トップヒアリング)
- 3月5日(水) チーム内検討会(監査テーマなど)
- 3月11日(火) MICNETに関するアンケート依頼(フロッピー送付)
- 3月11日(火) 事例研究会報告
- 3月18日(火) チーム内検討会(質問リストなど)
- 3月24日(月) 予備調査計画、アンケート中間集計
- 3月29日(土) 予備調査(小田原事業所訪問)、アンケート最終入手
- 4月2日(水) チーム内検討会(予備調査結果の検討など)
- 4月8日(火) 事例研究会報告、チーム内検討会(本調査の検討など)

- 4月10日(木) 情報システム大震災対策調査票、エンドユーザ追加ヒアリング項目の送付
- 4月16日(水) 本調査質問項目検討など
- 4月19日(土) 本調査(小田原事業所訪問)
- 4月25日(金) チーム内検討会(本調査結果の検討など)
- 5月7日(水) チーム内検討会(監査報告内容の検討など)
- 5月13日(火) 事例研究会報告(本調査結果報告、報告書記載内容調整)
- 6月2日(月) 監査報告会(東京本社訪問)

4. 今回のシステム監査で留意及び工夫した事項について

今回のシステム監査では、上述したとおり2つの監査テーマを設定しましたが、リーダーの村上さんを総括として、他のメンバーは3名ずつそれぞれのテーマに分かれました。

コンピュータシステムの危機管理の監査では、協会の「情報システム震災対策調査票」に基づいて調査を実施しました。同社は、かつて生産の主力、電算室の機能ともに神奈川県にありましたが、現在では生産の主力は静岡県に移っており、そこにコンピュータを設置すべきかどうかを検討課題となっているため、そのことについてのX社の選択肢及び実行のための改善案を提案しました。また、参考資料として、阪神・淡路大震災の実態レポートも幾つか添付しました。

情報システムの中長期計画の監査では、同社がトップダウンにより推進している、一人一台のパソコン導入と電子メールを中心とした意思決定の迅速化、情報の共有化の取り組みについてを中心に調査を実施し、情報システムの投資に見合う成果達成のため、全社的な組織改革、情報システム部門の要員育成等、広範囲の事項についてできるだけ具体的な改善提案をしました。

5. 今回のシステム監査の自己評価について

今回のシステム監査は、全体として、監査報告もX社の取締役、及び監査室長よりご評価頂き、今後のフォローアップの依頼も頂戴し、目標の「経営に役立つシステム監査」をある程度実現できたのではないかと思います。

一方、私自身とは言えば、諸先輩方の問題点に対する指摘の鋭さ、改善提案の内容の濃さ、

筆の速さ、文章の見事さ等に圧倒されてばかりで、とても力にはなれませんでした。

監査報告書作成の際、自分の担当分をなんとか書き上げ、チーム内の摺り合わせに臨んだものの、多くのご指摘を頂き、結果としてほとんど一から書き直すことになってしまいました。諸先輩方には非常に手のかかる新人だったと思います。この場をお借りしてお詫びを申し上げます。

6. 最後に

私は静岡県在住で、平成7年度のシステム監査試験に合格しましたが、試験合格後、しばらくシステム監査に関しては何の活動もしておらず、システム監査基準が改訂されたことすら知りませんでした。これではマズイ、何か勉強のキッカケはないかと考え、協会に入会したのが昨年9月です。それから11月に協会の10周年記念行事のシステム監査宿泊研修に参加させて頂きましたが、本年2月の協会総会に出席した際、研修時にお世話になった諸先輩方からお誘い頂き、今回のシステム模擬監査に参加させて頂くことになりました。

思えば、協会に入会してからまだ1年も経っておりません。その間に当初は思いもなかった経験をさせて頂き、全くもって自らの連鎖的な幸運を感じるとともに、この間お世話になった方々には感謝の念に絶えません。

今後とも、地方在住というハンデはありますが、できるだけ事例研のシステム監査というまたと無い機会を捉え、システム監査実務の経験を積んでいきたいと考えております。

多くの会員の皆さんが、事例研に参加され、知識・経験を積まれることを是非お薦め致します。

セキュリティ研究会活動報告

1. 平成7・8年度活動報告

平成7年度から実施した阪神・淡路大震災調査特別プロジェクトの成果をふまえて、平成8年度では、調査票のいっそうの内容の充実を図る目的で内容の見直し・追加を実施しました。

主な見直し点は「被害事象の分類を通産省「情報システム安全対策基準」(以下、安全対策基準と称する)に従って分類し、調査票項目を再編成した。

(項番2に記述)

②運用対策の部分を重点的に、内容の充実を図った。

すでに作成している1編：解説編、2編：調査編に続く、第3編として調査票改訂版を作成した。

安全対策基準に基づき分類し、次の通り番号付けを行った。(表1)

(1) 設置基準に関して

〈安全対策基準項目〉 〈本調査票項目〉

ホ.地震対策 a.設置環境

- | | |
|-----------|---------------|
| 1. 立地・配置 | → A 1. 立地・配置 |
| 2. 構造 | → A 2. 構造 |
| 3. 開口部 | → A 3. 開口部 |
| 4. 内装 | → A 4. 内装 |
| 5. 設備 | → A 5. 設備 |
| 6. 什器・備品 | → A 6. 什器・備品 |
| 7. 情報システム | → A 7. 情報システム |
| b. 電源設備 | → B. 電源設備 |
| c. 空気調和設備 | → C. 空気調和設備 |
| d. 監視設備 | → D. 監視設備 |

(2) 運用基準に関して

- | | | |
|----------------------|------------|-----------------|
| イ. 計画 | 3. 組織・管理規定 | → E 3. 組織・管理規定 |
| | 4. 災害時対応計画 | → E 4. 災害時対応計画 |
| ハ. データ等及び記録媒体の保管及び使用 | | |
| | 5. 災害・障害対策 | → F 5. データ等災害対策 |

ヘ. 要員 → G. 要員

チ. システム監査 → H. システム監査

(注)技術基準に該当する項目は運用基準との切り分けが難しいので、運用基準を優先させて分類した。

2. 平成9年度活動報告

平成9年度はツール化を試み、前回会報で報告したとおり完了した。

一方、同時並行的にこのツール作成のノウハウを活かし、安全対策基準のツール化を行った。

両ツール共に完了したので、会員の皆様に配布する事とした。

3. FDの取り扱いについて

会員の方は活用していただき、活用報告をお寄せ下さい。

なお、非会員の利用希望については提供方法、提供価格について検討中であり、決定次第会報・パティオ等でご案内致します。

ツールの使用方法については、FD内のREADME・TXTファイルをお読み下さい。

大項目・中項目一覧表

| 大項目 | 中項目 |
|--------------|-----------------|
| A 1 立地・配置 | ①立地条件 |
| | ②配置 |
| | ③バックアップセンター |
| A 2 構造 | ①建物の構造 |
| | ②室の構造 |
| A 3 開口部 | ①出入口の扉 |
| | ②窓 |
| A 4 内装 | ①床 |
| | ②天井 |
| | ③その他の内装 |
| A 5 設備 | ①検知・通報設備 |
| | ②消化設備 |
| A 6 什器・備品 | ①保管棚 |
| A 7 情報システム | ①センター系機器 |
| | ②周辺機器 |
| | ③分散系機器 |
| | ④コンピュータ用回線 |
| | ⑤バックアップ回線 |
| | ⑥その他 |
| B 電源設備 | ①電源設備 |
| | ②電源設備管理 |
| C 空気調和設備 | ①空調機・給水設備 |
| D 監視設備 | ①監視設備 |
| E 3 組織・管理規定 | ①組織 |
| | ①交通・通信 |
| | ②被害状況把握 |
| | ③環境の維持 |
| | ④物流 |
| | ⑤規定 |
| E 4 災害時対応計画 | ①業務運営方法 |
| | ②代替手段 |
| | ③本格普及方法 |
| | ④要員計画 |
| F 5 データ等災害対策 | ①OS |
| | ②AP |
| | ③データのバックアップ対策 |
| | ④データのバックアップ先の条件 |
| | ⑤データのバックアップの管理 |
| | ⑥バイタルレコード |
| | ⑦帳票 |
| | ⑧業務マニュアル |
| | ⑨障害対策マニュアル |
| | ⑩ドキュメントの管理 |
| G 要員 | ①教育・訓練 |
| H システム監査 | ①安全対策のシステム監査 |
| | ②災害時対応計画のシステム監査 |

システム監査未経験の会員のみなさん

システム監査セミナーに参加し、システム監査の実際を体験してみませんか!!

協会では、昨年設立10周年記念行事の一つとして、システム監査セミナーを開催いたしました。昨年度セミナーが好評でしたので、本年度も事例研究会で行っている模擬システム監査で得たノウハウを会員のみなさんに提供するために、システム監査セミナーを開催することにしました。システム監査実施未経験のみなさん、奮って応募して下さい。

記

システム監査セミナー概要

1. 日時 平成9年11月8日(土)～9日(日)
第一日目 13:00～20:00、第二日目 09:00～12:00
2. 場所 海外職業訓練協会 〒261 千葉市美浜区ひび野1丁目
3. 費用 15,000円程度(宿泊費、食費を含む)
4. セミナー内容
事例研が実施した模擬システム監査をケーススタディとして取り上げます。
システム監査セミナー用にアレンジした「システム監査依頼書および企業情報」を教材として、5人程度のグループで、予備調査、本調査、監査報告の実際を体験して頂きます。
5. 講師 事例研究会メンバーの模擬システム監査経験者数名
講師は監査手順の解説・指導の他、被監査企業の社員の役割も担当します。
6. 募集対象者および人員
協会会員(準会員、法人会員を含む)、先着順20名。
7. 申し込み先
日本システム監査人協会 事務局宛別紙の申込書にて申し込み下さい。
8. 申し込み期限 10月9日(木)
9. 問い合わせ 商船三井システムズ(株) 統括部 鈴木
TEL:03-5473-6114
E-MAIL: suzuki-mnr@molis.co.jp
NIFTY-ID:GFG01442

日本システム監査人協会

平成9年度疑似システム監査セミナー参加申し込み書

月 日

送付先：日本システム監査人協会

FAX-NO 03-5350-9269

| | |
|--------------------|--|
| 会員NO(法人名) | |
| 氏名 | |
| 資料送付先 〒住所 | |
| 電話NO (自宅) (勤務先) | |
| FAX-NO | |
| NIFTY又E-MAIL | |

新規入会個人会員

| 番号 | 氏名 | 勤務先・所属 |
|-----|-------|------------------------------------|
| 770 | 四ツ目浩美 | 日本ユニシス・ソフトウェア(株) 社会公共統括部 社会公共システム三 |
| 771 | 米田 博 | (株)東京三菱銀行 関連事業第一部 |
| 772 | 渡辺 和宣 | 大興電子通信(株) SIビジネス統括部アプリケーションシステム部 |

発行所 日本システム監査人協会
 発行人 橘和 尚道
 事務局 〒151 東京都渋谷区笹塚 2-1-6
 笹塚センタービル5F
 (株)産能コンサルティング内
 TEL. 03(5350)9268 FAX. 03(5350)9269
 ホームページ <http://www.justnet.or.jp/home/saaj>

※ご連絡はなるべく郵便または、FAXでお願いします

会報担当(ご投稿、ご意見、ご要望は下記まで)
 三谷慶一郎 (株)NTTデータ経営研究所
 TEL. 03(5467)6321 FAX. 03(5467)6322
 金子 長男 (財)公営事業電子計算センター
 TEL. 03(3343)4560 FAX. 03(3343)6742
 富山 伸夫 (株)データ総研
 TEL. 03(5695)1651 FAX. 03(5695)1656
 木村 陽一 CSKネットワークシステムズ(株)
 TEL. 03(5321)3208 FAX. 03(5321)3201
 山内 美佐子 シーティーシーシステムデザイン(株)
 TEL. 03(3419)9098 FAX. 03(5430)8047